

2017年3月1日

## エコノミストは世界を救う

IIMA 経済調査部長 兼 開発経済調査部長  
佐久間浩司

今の職に就いて6年になりますが、今月で退職となりました。日頃からこのIIMAメルマガの読者の皆様を初め、多くの方に研究所の活動を支えて頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、これからも変わらぬご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

研究所で働く中で、時々感じたあることを書きたいと思います。それは、国の発展におけるエコノミストの役割です。

エコノミストは、経済学をベースとした専門知識を持つ職業集団です。企業としてそれを生業としているのはシンクタンクです。シンクタンク以外にも、何らかの形で経済の専門性を活かして日々の職務に当たっているエコノミストの範疇の人間が、経済関係省庁、中央銀行、金融機関、商社などに比較的多くいます。こうした省庁、銀行、企業は、調査部のようなエコノミスト集団の部署があるので、ローテーションによって、多くのスタッフがエコノミストとしての訓練を受けます。他の部署に移っても、そのうち何人かはエコノミストとしての見識を忘れずにそれぞれの持ち場で意思決定に参画していると思います。

エコノミストの特徴は、経済学が、社会文化系の学問の中では比較的自然科学に近い原理によって組み立てられているために、世界中のエコノミストが、共通の理解のベースを持ち、議論のための共通の語彙を持っていることです。さらに、これが大事なのですが、どこの機関でも、エコノミストは、短期的な利害、短期的な収益ノルマやプレッシャーから比較的距離を置くことが許されています。このため、別々の機関や国に属しながら、狭い利益にとらわれない合理的な考えに基づいた意見交換ができるのです。

G7の財相や中銀総裁は、こうしたエコノミストの中で各国の頂点に立つ人です。法律家とか歴史家もいるのかもしれませんが、際立つ特徴は基本的には“エコノミスト”だと思います。彼らは国益に責任を負いながらも、長期的な世界全体のWin-win関係を築くために協議しています。また経済分野では長期的なWin-win関係が成り立つという信念を持ちながら行動していると思います。

このトップエコノミストの周辺には、それを支えるエコノミストのグループが様々な機関に散在しており、自分と同じような肩書きやレベルの海外のカウンターパートと交流します。こうした集まりの場では、所属機関の利益を忘れることはありませんが、それでも一旦は個々の利害を離れて大所高所からの議論をします。ブレトンウッズ体制が崩壊した後も、世界は為替相場

切り下げ競争に陥ることなく、マクロ的な政策協調を続けておりますが、この背景には、こうした何層ものエコノミストのコミュニケーションがあったのだと思います。

こうしたエコノミスト同士の交流は、東アジアでももっと活発にあるべきでしょう。最近、当研究所は、中国の社会科学院と共同で、東アジア地域統合をテーマに日中間の学者、研究者のワークショップを開きました。参加者の間で、肩肘張らないフランクな意見交換ができたと思います。いろいろな問題を抱える日中間ですから、最初は相手の出方を見ながら恐る恐るの様子もありましたが、徐々に本音トークになっていきました。

アジア、特にその中心となるべき日本と中国の間では、こうした情報交流を広げていくことは非常に大切です。その際に大事なのは、本音を話せる立場の人が集まる必要があることです。このため、政策や制度の企画立案に直接関わっているひとは避けた方がいいでしょう。技術的なことですが、こうした工夫は必要です。

フランクに話せる段階に達したら、次に大事なのは、ただ仲の良い雰囲気だけで満足してしまっただけは進歩がありません。出来るだけ具体的なテーマを持って臨むことが大事だと思います。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2017 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>